

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

Title	やり取りを活性化する意思決定タスクを含む単元開発：交渉会話への参加を意図した技能育成を目指した事例
Author(s)	千菊, 基司; 岡本, ふみ香; 香田, 夏美
Citation	中等教育研究紀要 / 広島大学附属福山中・高等学校, 63 : 103 - 114
Issue Date	2023-05-31
DOI	
Self DOI	10.15027/53942
URL	https://doi.org/10.15027/53942
Right	
Relation	



やり取りを活性化する意思決定タスクを含む単元開発

－交渉会話への参加を意図した技能育成を目指した事例－

千菊 基司・岡本 ふみ香・香田 夏美

本論文では、意思決定プロセスにおける思考・判断・表現する力の育成を目標とした、やり取りの力をつける言語活動を中心とした単元展開の実践例を紹介する。意思決定タスクへの参加を通じ、高校生が英語学習の新たな価値に気づくため、学習意欲の向上が期待できる。単元に到達すべき目標を下位項目に細分化し、単元内に複数の言語活動を構成すると、生徒はやり取りに必要な言語材料に習熟しやすくなり、また授業者は発話内容や表現形式面で指導のポイントを明確に設定しやすくなり、学習効果が高まる。実際の授業や評価の場面で得られた生徒の英語発話について、発話の質とやり取りの相互性を分析し、高校生を対象とした言語活動中心の指導のあり方を考察する。

1. 背景

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』の総説には、生徒が、「他者と協働して課題を解決していくこと（途中略）ができるようにすることが」学校教育に求められている、とある（p.1）。この基本方針に沿って、意思決定のための意見のやり取りが、外国語科の目標の柱の一つとなっている。外国語科の各科目において、生徒に意見をやり取りさせる活動の設定のために、日常的な話題と社会的な話題がある。そのうち「日常的な話題」については、高校2年生以降で履修する「論理・表現Ⅱ」で「自分自身の状況や要望を伝え、相手の意向を把握しながら交渉したりする活動」が最終的な目標となる。

高校生が英語学習の目標をどのようにとらえているのかについて、興味深い調査結果がある。国公立300校、約6万人の高校3年生が参加した「平成29年度英語力調査結果」によると、37.5%が「大学入試」や「学校の授業」が英語学習の目標であると回答し、35%が「海外旅行などで日常的な会話」ができる英語力を求めている一方、英語での意見の交換を含む選択肢（「英語を使って国際社会で活躍できるようになりたい」など）を選んだ生徒は合計で20.4%にとどまっている。課題解決に直結する、英語を使つての意見交換は、多くの高校生には縁遠い話と受け止められていることが伺える。一方で「話すこと」の得点の高い生徒が、「英語を使って国際社会で活躍したい」と回答する割合が高いという分析もある。英語の運用能力を高めることが、英語学習について高校生の持つイメージを変えることになるとも考えられる。

意見の交換など、やり取りでの発話においては、話し手が相手の反応によって内容を調整しながら情報発信することが必要である。対話への参加者は、相手に質問して理解を確認したり、相手の発言に反応したりして、協

力して対話を継続する（Bygate, 1987）。参加者はまた、声の大きさの変化、相手の発言を誘うような表現などを用いて役割を交代しつつ、協力して会話を継続していく（Carrol, 2008）。学習者間で行われた会話の分析を通じて、2人以上の話者の発話の重なりがあったり、参加者がみな沈黙してしまうことがあったりすることが指摘されている（Tavacoli, 2016）。相手を待たせるまいとする気持ちが強く働く様子や、運用能力の不足から、発話速度が会話の進行に追い付いていない様子が想像できる。

やり取りを成立させる暗黙の規則には、話者交代に関するもの以外にも、話題の発展のさせ方を含む談話の一貫性の確立方法がある（Carrol, 2008）。例えば、交渉で提案を提示する際には、良好な人間関係の維持を狙い、交渉相手に決定権を委ねたように話を進めるため、仮定の話の形で述べ、相手が気づくのを待つことがある（Koester, 2014）。交渉には段階性があり、情報交換、取引、合意の3段階を経て進展し、またそれぞれの段階で、特徴的な言語使用があることも指摘されている（Lafond, Vine, & Welch, 2010）。交渉以外でも、談話の一貫性の確立に関するスキーマについて、愛場・ウィン（2015）が提案・苦境など7つの言語行為についてその違いを整理している。

高校1年生でのやり取りの指導の過程においては、多くの支援が必要であることは『学習指導要領』にも明記されていて、授業者は、発話内容の生成に直結する「使用する語句や文」に関する支援だけでなく、談話の一貫性の確立に関する支援として「やり取りの具体的な進め方」も示し、生徒がやり取りを続けられるよう配慮すべきである。ただし『学習指導要領』には、教えるべき言語機能や、その達成のための言語活動の運営の方法に関する記載はあるものの、談話の一貫性の確立方法に関わ

る様々なスキーマの記述はない。

高校入門期に目指すべき運用能力を CEFR の A2 とすると、その水準の話し言葉の質的側面は「質問に答えられ、簡単な話に対応することができる」と定義されている。その段階の言語活動では、間違いを恐れない態度と、準備なしで参加した対話の展開にある程度ついていけるよう、英語の基礎的運用能力を高めることが目標となる。

その一段階上の B1 レベルでは「自分で話をはじめ、続け、終わらせることができる」ことが求められている。やり取りの目的に応じた対話の展開の仕方についても意識させることが、B1 を目指す指導の過程で大切になる。英語教員は、このような留意点を、単元の指導案に反映させる必要がある。

2. やり取りの指導に向けて

2-1 言語活動を中心とした単元展開の原理

「話すこと」の言語活動に生徒が参加できるようにするには、目標とする発話内容を構成するために必要な語彙の獲得と、対話に参加するためのやり取り技能の獲得が、その前提となる。ただし、多くの高校生は、これらを持っていないか、持っていて十分に使いこなせない。言語活動を中心としたスピーキング活動に参加する学習者への指導として、指導の問題を克服するため、原則的な手順について、Goh & Burns (2012) の提案する以下の指導サイクルを参照する：

- ① **ゴールの提示** ⇒
- ② **語彙の活性化と発話プランの提示** ⇒
- ③ **スピーキングタスク** ⇒
- ④ **言語材料への焦点化** ⇒
- ⑤ **スピーキングタスクの繰り返し** ⇒
- ⑥ **学習者自身のリフレクション** ⇒
- ⑦ **フィードバック** ⇒

英語でのやり取りの際に生徒が受ける認知負荷を低減するため、高校生の指導のモデルとして、次のように単元内の活動を設計・配列することを提案する。まず、単元の目標が達成できたかを総合的に判断するための言語活動を「メインタスク」ととらえて設計する。そこで求められている知識や技能の向上のために、短時間でできる言語活動を複数作り、上記の段階②で「プレタスク」として実施する。また、メインタスクの前段階に、メインタスクと同様の発話機能の使用が必要な言語活動であるが、既習の語句を用いて達成できるなど、認知負荷の低い言語活動を「ミニタスク」として③の段階で実施する。実際に使ってみないと、生徒自身もどのくらい既習

の知識が活用できるかわからないものである。一度話させた後、段階④で、生徒が共通してうまくできていないところを授業者が指摘する必要がある（Focus on Form と呼ばれている）。それらを踏まえて、⑤の段階でメインタスクを行うと、生徒が困難を感じるころがある程度一般化されるので、段階⑥（生徒のリフレクション）と段階⑦（フィードバック）がスムーズにつながり、学習効果が上がると考えられる。段階⑦を経て、新たなゴールの提示を迎え、スピーキング指導が進んでいく。『学習指導要領』に示されている授業展開の例にも、このモデルの考え方が反映されている。

2-2 高校生が意思決定タスクを通じて学べること

高校1年生で履修する「英語コミュニケーションⅠ」であげられている言語活動の一つに、「情報や考え、気持ちなどを即興で話して伝え合う」ことがある。2年生で学ぶ「論理・表現Ⅱ」において、「交渉」を通じて自分自身の状況や要望を伝えたり、相手の意向を把握したりすることが必要になるが、高校1年生段階においてその素地を身につけさせるため、考えや意図を伝える活動に取り組ませる必要がある。

考えや意図を伝えるために必要な言語の働きの例として、「提案する」「賛成する」「反対する」などが『学習指導要領』に挙げられている。指導時には、「場面に応じた適切な表現を選択し、（途中略）まとまりのある考えや意図を伝えられるよう指導する」とある。高校1年生を対象にした授業では、「身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について」、「生徒はペアになり」「話題に関して自分の考えなどを伝え合う」活動に参加するものとする。そのような活動において、生徒は、話題に関して異なる立場を指定され、ロールプレイ・ディスカッションを通じ、必要な表現に慣れ親しみ、英語運用能力を高めるよう指導する必要がある。それらの活動の中で、交渉会話の段階的で述べたように、合意に至る前に、相手の提案の根拠となる理由や事実を聞き出して理解を示したり、自分の提案についても同様に理解を求めたりすることが必要なのである。

2-3 意思決定タスクの短所とその克服方法

言語活動を学習者に行わせると、活動の目標を達成するストラテジーを探すことに長けた学習者を生み出す結果に終わる可能性があることが指摘されている（Hawkes, 2012）。そのような学習者は、意見を表明する際、本当に言いたいことを言わずに、英語にできる範囲で発言するであろう。単純に発話量などを評価規準とした場合に、生徒間の活動は活発に行われたが、新しく使えるようになった表現はなかった、という結果となり

かねないのである。発話の中の文法的な正確さを評価規準とした場合は、評価が下がる材料を減らす目的で、発言を少なくすることも考えられる。

英語で意見を交換する活動の中で、学習者が発言しづらいと感じるとすれば、発言の内容自体をどのようにつくるか分からないことと、準備が十分できない中で発話することへの抵抗が考えられる。どちらも、外国語で意思疎通を行う時にだれもが持つ不安が源である。

発話内容の生成に関する負担感を軽減するには、自分の意見がまとまらないことを避けるために、役割練習的に立場を与えることがまずあげられる。また、相手の発言の共通点や相違点に言及するための表現を教え、そのような観点で相手の発言を聞き、自分の発言を組み立てることを促すと良いのである。

準備が出来ない中で発表することへの負担感を軽減するには、生徒が経験した、あるいは経験しそうな身近なテーマについて話し合わせるものがあげられる。発話内容を考えやすくなるし、それまでに体験した言語活動で獲得した表現が使える場面が増えるであろう。さらにやり取りに必要な技能の一つに、発言権の獲得があるが、特に初心者には難しいので、ターンテイキングを明示的に行うような活動のルールを作ったり、相手の発言の反復を練習する活動を単元に取り入れれば良いであろう。外国語で話す以上、必要な表現がすぐに出てこない時にどうするかについて、コミュニケーション方略を用いて切り抜ける指導も含めるべきである。

2-4 単元の指導目標と研究課題

これまでの議論を踏まえ、以下のことがらを学習者が達成できることを目標に、やり取りの指導を展開する。

- (1) 論理的に意見を表明することができる
- (2) 意思決定にふさわしいモデルに沿って対話を展開することができる
- (3) 必要な表現がタイミングよく出てこなかった時に対処することができる

本論では、高校1年生を対象とした単元展開例と、実際の授業や単元末のパフォーマンステストで得られた発話を記述し、やり取りの指導のあり方の一例を提案する。指導のポイントは上記の(1)~(3)に対応し、①意見とその根拠の表し方、②相違点の整理を踏まえて合意を目指す展開や、人間関係が損なわれないような反論の表現に慣れるための指導、③困ったときのサインの出し方とその対応の仕方も含めた学習者間の協力のあり方、と考える。

3. 指導の実際

3-1 調査協力者

調査協力者は筆者たちが担当する高校1年生の1クラスの生徒で、単元が始まる直前に、彼らの英語力についての自己評価と、意見をやり取りすることに関して意識調査を行った(2022年度2学期実施、回答数36)。英語力の自己評価(7点満点)に関しては、読むこと(4.53) >書くこと(4.08) >聞くこと(3.74) >話すこと [発表](3.66) >話すこと [やり取り](3.58)であった。¹⁾

英語で話し合う活動を英語の授業で行うことについては、全員が好意的で、4割にあたる15名は「楽しい」と回答し、残りは「良い経験になる」と回答した。ただ、授業において「話し合い」活動に参加する意義は認められたものの、彼らの日常生活における話し合いで「反論すること」については、「面倒くさい」「相手に申し訳ない」を3割の生徒が(11名)、「意見が合わない時」は、「相手に合わせる」を4割近い生徒(14名)が回答した。このことから、母語においてそもそも、話し合いのスキルが十分磨かれていない様子が想像された。

英語運用能力の目安として、11月時点での実用英語検定の取得状況は準1級1人、2級20人、準2級11人、であったことを付記しておく(任意受験)。

3-2 単元と目標、評価規準と目標到達に必要な言語材料

(1) 題材

Communication in Practice 2 “Taking Part in International Volunteer Work, ” (pp.90-93) *Element English Communication I* (啓林館)

題材は、比較的短く平易な英語で書かれたインターネット広告で、そこから必要な情報を読み取り、自分の意見の根拠とするため、読むことと、話すこと [やり取り] の技能統合が必要な言語活動を展開することに適している。本単元では、優先順位をどのように考えたかについての情報交換がやり取りの中心になるよう、必要な英語表現の指導を行う。また、「話すこと [やり取り]」の活動を通じて、交渉会話の段階性をモデルに合意形成の手順を指導する。

(2) 目標

身近な話題(ボランティア活動のプログラムの選択)について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考えなどを理由とともに話し手に伝えることができる。

(3) 評価規準

○主体的に学習に取り組む態度 ※記載省略

○思考・判断・表現

- ・自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、身近な話題（ボランティア活動）について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、相手の意見に応じて、賛成／反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合っている。

(4) 指導すべき言語材料

- ・対話の展開への積極的な貢献
What do you mean by ~?
- ・相手の発話の意図の確認 Are you saying that ...?
- ・相手の好みを踏まえた提案
In terms of ~, I think Program ○ is beneficial.
- ・情報や考えについての言及（題材内容への言及）
- ・明確化要求 Did you say that ...?

3-3 単元計画

(1) 導入：プレタスクステージ（5時間の授業のうち、それぞれ約20分間・モジュール展開²⁾）

- ・目的達成の手順への習熟：リスニング活動において、提案→賛成・反対のダイアログに慣れる
- ・やり取りのスキル向上：対話の展開に協力するミニダイアログ

(2) 発展：ミニタスクステージ（2時間の授業のうち、それぞれ約20分間・モジュール展開）

- ・メインタスクの負荷を小さくしたタスクを体験させる

(3) 完成：メインタスクステージ（3時間）

- ・メインタスク（話すこと [やり取り]
- ・発展演習（書くこと）
- ・パフォーマンステスト（話すこと [やり取り]

3-4 各活動の設計と展開

3-4-1 「聞くこと」を通じた知識の導入

やり取りの展開に必要な知識を得られるよう、「聞くこと」の活動を導入段階で行う。メインタスクの達成に便利な表現を含む教材を、『基礎英語 LEAD』³⁾を用い、作成した。英問英答で概要を把握する活動、シャドーイングを経て、ターゲットの表現を含む英文（一つの教材の一つ）を提示し、解説した。

- ・対話を始める表現の導入： I'm thinking of ...
- ・やり取りの展開のための表現の導入：
What's wrong with that? / How can that be possible?
/ Are you saying ...?
- ・時間稼ぎに便利な表現の導入：
That's a tough question.

3-4-2 「話すこと」の活動設計のひな形

「話すこと」の指導は、下記の指導手順を基本とする。ペア活動を複数回行う際、相手を変えて反復して取り組ませる。これは、ペア活動の相手が用いていた表現を、相手を替えることによって試しやすくするためである。

段階	時間(分)	学習者の動き
(1)	3	《必要な表現の導入》
(2)	1~5	[活動前準備]
(3)	2~3	<第1回ペア活動>
(4)	2~3	<第2回ペア活動>
(5)	2~3	[代表生徒による発表]
(6)	3~5	《Focus on Form》
(7)	2	<第3回ペア活動>
(8)	3	[リフレクション(活動後の整理)]

十分に練習させた後、代表生徒に発表させ、フィードバックを与え、目標とする知識や技能を使えているか教師が指摘する。各生徒にやり取りのかみ合わせ方について改めて意識させ、振り返りのポイントを共有させる。十分に目標が達成されていない状況が明らかになった場合は、対話の途中に介入し、発展させるよう質問したり、ヒントを出したりして手助けする。

評価の段階においては、本単元では、合意形成に向けて話をかみ合わせようと努力しているか、意見の表明や交換のために相応しい表現が正しく使えているか、話に詰まった時にどのように対応しているか、の3点が評価の観点となる。

3-4-3 「話すこと」のプレ／ミニタスクのポイント

(1) 雰囲気づくりのためのプレタスク

やり取りを苦手と思う高校生への配慮として、達成目標をシンプルにした、短いタスクをたくさん経験させる。仮に一度はタスクがうまくいかない場合であっても、相手を替えて複数回取り組むうちに、成功した感覚を得るようである。やり取りを達成するために必要な言語機能別に異なる活動を複数用意し、実施した。これらの活動を経て、生徒は沈黙を回避でき、協力的で、反論や質問のしやすい雰囲気を作ることができる。以下の活動のための教材は、千菊(2019)を利用して作成した(pp.33-42)。

- ・やり取りの途中に、リアクションをする練習
☆発話の一部反復、関心や理解を示す定型句の利用
- ・相手の発言の詳細を求める練習
☆述べるべき内容が欠落した発言へのリアクションとしての質問
- ・相手の気持ちに配慮する表現を用いる練習
Many people may like them, but ... /

I understand how you feel, but ...

- ・語句の意味を聞いたり、発言の意図を聞いたりするための表現を使う練習 What do you mean by ... ?

(2) 「論理的」に発話内容を作るためのプレタスク

論理的な発話に必要な構成要素を、意見・理由・事実からなると定義し、特に、理由を述べるために必要な形容詞を使う練習を行う。以下の活動のための教材は、千菊 (2019) を利用して作成した (pp.74-83)。

- ・理由を述べるために便利な形容詞を使う練習
cool / convenient / challenging / promoting ~ friendship
/ good for health 5つのカテゴリー
- ・相手の話の内容との関連を述べるのに便利な表現を使う練習 in terms of

(3) 反論のフレームに慣れるためのミニタスク

教材は、千菊 (2019, pp.85-87) および、本多 (2016, pp.48-49) を利用した。

- ・発話内容を論理的に述べる。
- ・反論のフレームはワークシートに明示する
 - ①相手の発言や価値観を理解したことを伝える
 - ②相手の意見に同意できない理由を伝える
 - ③自分の提案が持つと考えるメリットを伝える
- ・トピックは非現実的な設定で、かえって気軽に話せる話題とする：無人島に何を持って行くか

3-4-4 「話すこと」のメインタスク

(1) 教科書のタスク 【資料 1】

教科書で示されている展開は、お互いが大切にしたいことがら (priority) についてまず話し、話し合いの焦点化を図った上で、二人ともが気に入りそうなプログラムを探すことになっている。しかし、言語使用を促進させるという点で、次のような展開に陥って、生徒間の練習活動が活性化しないまま終わることが危惧される：

- ・お互いの発話を肯定して、同じですね、で終わると、発話量が増えない。
- ・お互いの理由が、～が好きだから、のレベルでも話は通じてしまう。
- ・仮に論理的な発話になっても、やり取りがかみ合って発展するとは限らない。というのも、優先項目が同じでも、該当する条件が複数あり、お互いが自分の好みを述べて終わり、になりかねない。

(2) 授業で使用したタスク 【資料 2】

発言機会を増やすために、教科書の設定と同じく、ペアワークが最適と判断した。最終タスクでは、お互いの主張を聞き取れないと話が進展しないように、生徒 A と

生徒 B の役割と対話の展開を次のように設定した。

- 01 生徒 A：好きなプログラムとその理由を述べる。
- 02 生徒 B：生徒 A の優先事項を考慮しつつ、異なるプログラムを理由とともに提案する。

ここで in terms of … を利用させ、かみ合わせるポイントを焦点化させた。

- 03 生徒 A：相手に賛成する場合、提案されたプログラムの内容のうち、別の魅力について言及する。
相手に反対する場合、提案されたプログラムの内容のうち、受け入れがたい事柄について言及する。

なお、適切な言語使用という観点から、賛成する場合は、優先事項について理解したことを示す発言をすること、反対する場合は、反論の前置きとして相手の気持ちに配慮する表現を使った発言をすることを、それぞれ求めた。このような言語使用は、交渉の過程において、良好な人間関係を維持するために重要である。

3-4-5 パフォーマンステスト

分析対象となるパフォーマンステストは、実験目的ではなく、単元の評価場面として実施した。そのため、同一授業内 (50 分間) で 1 クラスの生徒を面接し、「話すこと [やり取り]」の到達度が測定できるように設計した (実際に受験した生徒は欠席者を除く 38 名)。面接官は 2 週間に 1 回の割合で年度当初より高校 1 年生を担当している ALT が担当した。生徒は授業を受けている教室でテストとは異なる課題に取り組み、順番が来たら部屋の外で ALT と対面に対話した。生徒の出入りで生じる待ち時間を減らすため、受験者を含め、常に 2 人の生徒を受験中の生徒の後ろで待機させた。待っている生徒が受験中の生徒の発話をそのまま模倣して高得点を取れることが起きないように、4 つのテストを作り、順番に使用した。⁴⁾ 【資料 3】

このテストは、指導と評価の一体化を目指した到達度確認テストとして作成しているため、指導内容に関連した発言があればポイントを加算する、分析的な採点システムを採る。具体的には、以下のルーブリックに記載されている発言について、文意を損なうグローバルエラーが無ければ各項目を満点として加算していく。

1 分間の制限時間で、試験官の発話に 20 秒は要するため、40 秒で 40 語程度話せると仮定し、平均 4 回の発言機会に限られると考え、合計 7 点以上取れば評価 A、合計 5 点以上取れば評価 B、それ以下を評価 C とした。

ルーブリック： ※表中の数字は得点を表す。

やり取りへの貢献		やり取りの修復の試み
聞き取った内容への反応	論理的な発言	相手の発言内容が理解できなかった時に
1: 質問して対話を発展させた 1: 相手の発言の要点を理解したことを伝えた 2: 相手の再提案内容に質問または反論した	1: 提案した 2: 読んだ情報から関連ある事実に言及した 2: 優先順位に言及した	2: 質問して修復を試みた

4. 授業・評価場面における発話の実際

4-1 授業における発話

以下の対話は、メインタスクを実施した授業において、生徒間ペアで2回、相手を変えて取り組ませ、練習した後、代表ペアが授業内で披露した発話（約1分40秒間）を書き起こしたものである。以下、S_A=Student A, T=Teacher とする。

01 S_A: I'd like to take part in Program 2.

02 S_B: OK.

03 S_A: I'd like to spend my free time with host family.

04 S_B: Oh, you want to stay with local host family.

05 S_A: Yes. How about you?

06 S_B: I understand that place to stay is important to you.

But if we take part in Program 3, we can stay at a volunteer center. There are many foreign people we can interact, so we can develop our English skills. I think Program 3 is good to you.

07 S_A: I understand that in Program 3, I can also talk with many people.

08 S_B: Yes. Thank you for understanding. I also want to stay with local host family, but you and I can develop my English skills in the volunteer center.

以上の対話の後、授業者は以下のようにコメントし、やり取りをかみ合わせるポイントを全員と共有し、さらに相手を替えるよう指示し、役割を交代して練習に取り組ませた。

09 T: OK. So, Student A wants to join Program 2 because he wants to stay with a host family. Student B wants to join Program 3 because he wants to stay in the volunteer center. In both ways, you can develop English skills, so Student A agrees to Student B's idea.

練習を経た後、Student C を指名し、授業者は対話を実演した（コメントなどを含めて約3分40秒間）。先ほど

の発表からさらに練習を加えているので、対話の途中で Student C に、授業者の提案に同意しないよう、準備なしでの発話を求めた。しばらく沈黙があったが、授業者の支援に応じて、その場で文脈に相応しい対話を展開することができた。十分な練習を経て、発話に必要な言語材料に習熟していたことがうかがえた。

01 S_C: If we take part in Program 1, we will teach a lot of things to foreigners.

02 T: I see. So, you want to teach English.

03 S_C: Yes. How about you?

04 T: Are you saying job description is important?

05 S_C: Yes.

06 T: All right. I understand it's important to you, but look at Program 3. In terms of job description, I think Program 3 is also good. What do you think?

07 S_C: That's true. I understand that in Program 3, I can also teach a lot of things to foreigners. Thank you for the suggestion. Program 3 is also beneficial in terms of job description.

08 T: OK, but please disagree with my idea. Please find something that you don't like about Program 3. I knew that you were going to agree with me, but please disagree with me. OK? If you disagree with the idea, you should find something that you really don't like about this program.

09 S_C: (無言)

10 T: OK, so why do you think Program 1 is better? Please talk to me about the second priority.

11 S_C: Because Program 1 is held in Hokkaido, I don't have to go abroad.

12 T: I see. So you want to take part in a domestic program. You want to stay in Japan, but still you can have intercultural or international experience. OK. That's reasonable. You really want to take part in Program 1.

以上の対話の後、授業者は以下のようにコメントし、Student C の努力をねぎらった。

13 T: You did very good. Thank you. OK. He used relevant information to back up his opinion. It was a good try.

この後、スピーキングテストと同様、提案に対して同意しないような役割設定で再びメインタスクに取り組みさせたが、その布石として、授業者は生徒Cとのやり取りを「例題」として他の生徒に見せた。なお、対話中の下線部の表現 (Are you saying …) は、聞くことの活動で導入した表現であったが、生徒の活動を観察した際、ほとんどの生徒が活用していないことに気づいた授業者が、優先順位を確認するための表現として用いて対話を展開した。さらにこのコメントの後、Focus on Form の原則に従って明示的に示したことも奏功したのか、多くの生徒が、その後その表現を使うに至った。

4-2 パフォーマンステストで得られた発話

4-2-1 内容面の特徴

単元の授業を3分の2以上出席できた33名の発話を、分析対象とした。33名(100%)が、試験官であるALTの発話内容に合わせ、やり取りに協力する質問と反応ができた。ALTの発話を踏まえて別のプログラムの提案を論理的にできた評価B以上の生徒は27名(81.82%)であった。優先順位を根拠にした理由への言及と、関連する事実の引用の両方ができた評価Aの生徒はそのうちの19名(全体の57.58%)で、8名(同24.24%)は読み物からの事実の引用のみであったので評価Bと判定した。別の3名(9.09%)は、ALTの発言内容の理解が一度でできず、確認に手間取ったため、対話の修復に時間がかかった。評価Bの判定であったが、論理的な提案の説明には至らなかった。評価Cの生徒は3名で、ALTの発言内容を踏まえた提案ができたとは言えなかった2名と、in terms of の使い方戸惑って時間切れとなった生徒が1名であった。

4-2-2 パフォーマンステストで得られた発話とその質的特徴

約1分間の対話において、生徒は平均4.42回の発話機会を取ることができた。評価Aを満たす発話ができる機会数と考えられる。また、その発話機会に見られた実発話語数⁵⁾の平均値は42.45語であった(SD=10.92, 最大値66, 最小値23)。発話を構成している言語材料は、定型表現や読みものを通じて得られる表現が中心であったが、場面に応じて正しく組み合わせられていた。また、ALTの発話を聞きながら話す内容を考え、対話の展開に貢献できるようになっていた。

正確さについては、言いよどみがあったり、冠詞や名

詞の数に関するローカルエラーがいくつか見られたりした発話が大半であったが、語順や時制などに関わるグローバルエラーはほとんど見られなかった。テストの制限時間下で生徒が受ける重圧を考えると、彼らが持っていた言語資源を巧みに使い、総じて、発話の目的を達成したと評価できるパフォーマンスであった。なお、正確さを高めることは、単元の目標ではなかったため、正確さの観点からの発話の分析は行っていない。

4-2-3 発話の実際

授業中に指名されて発言した生徒(Student A および Student C)の、テストでの発話を紹介する。それぞれ最初と最後のあいさつの部分は省略して記載している。ALTの提案における優先順位の述べ方が、in terms of + 名詞句とは異なっているため、ためらってしまったことが、その後の展開における生徒の積極性を奪ってしまったようだ。ただ、その後対話の展開に貢献する意図で、発話の意図を確認する質問ができた部分については、評価できた。

(1) Student A の発話 (Test D を利用)

01 ALT: I think Program 4 is convenient.

02 S_A: What do you mean by convenient?

03 ALT: Well, the program says lunches will be provided, so we don't have to cook.

04 S_A: What is important?

05 ALT: Lunches will be provided, so we don't have to cook.

Free lunch is attractive.

06 S_A: You think place to stay is important.

07 ALT: Yes. Which program are you thinking of?

08 S_A: I think Program 2 is good.

09 ALT: Why is that?

10 S_A: Because...

分析結果:

① 発話の質 実発話語数 23 語

参考: Test D 受験者平均 46.63 語 (全体 42.45 語)

② 総合評価 評価 B (合計 5 点)

③ 観点別得点 ※ () の中は得点

反応 対話の展開に貢献する質問をした (1)

相手の発言の意図の確認をした (1)

修正 相手の発話の意図がわからなかった時に質問して対話をかみ合わせた (2)

論理性 提案した (1)

(2) Student C の発話 (Test A を利用)

01 ALT: I think Program 3 is challenging.

- 02 S_C: Program 3. What do you mean by challenging?
 03 ALT: We will have to use English and I really want to improve my English.
 04 S_C: So you think language language requirement is important.
 05 ALT: Which program are you thinking of?
 06 S_C: I think ... In terms of language requirement, I think Program 2 is good.
 07 ALT: Why is that?
 08 S_C: Because we can we can also speak Japanese and we can learn intermediate level English so we can improve my English our English skills.
 09 ALT: But if you choose program 3, we can stay 10 days. What do you think?

分析結果：

- ① 発話の質 実発話語数 46 語
 参考：Test A 受験者平均 44.67 語（全体 42.45 語）
 ② 総合評価 評価 A（合計 7 点）
 ③ 観点別得点
 反応 対話の展開に貢献する質問をした (1)
 相手の発言の意図の確認をした (1)
 論理性 提案した (1) 読んだ情報から関連ある事実に言及した (2) 優先順位に言及した (2)
 ④ メモ 最後の ALT の発言については、“I'd like to stay with local host family.” など、Program 2 にはあって、Program 3 にはない事実を述べるか、“I'd like to visit Australia better than Malaysia.” などのように個人の好みを述べられれば良かったが、Student C は、そこまで話す時間が確保できるほどにはスムーズに対話が発展させられなかった。

4-2-4 本単元で利用したテストの限界と課題

評価 C となった 2 名の生徒が、テストの後半部分で、相手 (ALT) の意向を踏まえた提案になっていなかった。この原因は、授業でのフィードバックは口頭のみで、英語の運用能力の低い生徒には、効果が薄かったからかもしれない。ミニタスクが終了した段階で、例えば筆記テストの形で、やり取りに貢献するための知識の定着を確認させることも、タスクの成功に貢献したかもしれない。少なくとも、準備段階で彼らが使っていたワークシートを回収して、取り組み内容にフィードバックを与えることが必要であった。

残りの 1 名は、相手の好みを踏まえた発言にするための表現として指導した *in terms of ...* がパフォーマンステストでは正しく使えていなかった。作文課題では適切に使えていたことを後日確認できており、テスト中、口

頭でのやり取りに緊張していたことが原因であると想像している。

テストの制限時間の設定について課題が残った。相手 (ALT) の提案内容について聞き取れなかった点があり、発言内容を確認する質問をして時間を消費してしまい、テストの後半部分にたどり着くことが出来なかった生徒が 3 名いた。そのこと自体は、自然なやり取りになっていたため得点を与え、評価 B とできたが、論理的な発言の部分に到達する前に制限時間となり、やり取りをその時点で終了せざるを得なかった。やり取りの難しさを改めて感じた。テスト結果について生徒が公平感を得やすいように時間配分をする必要があるが、それゆえに、テストで引き出せることが限られてしまうという特徴も強く残った。試験官を 2 人体制にして、最低でも 2 分間のやり取りとする必要があったが、今後の検討課題である。折衷案として、評価 C に納得がいかない生徒が自ら申し出た場合に限り、放課後などに別のテストセットを用いての再受験を許し、パフォーマンスの改善が見られた場合は、評価 B を最大に、記帳しなおすことも検討したい。

5. まとめ

高校生の中には、日ごろから話し合うこと自体できれば避けたい、反論は苦手だと感じる生徒がいる。しかし、明示的に反論のマナーや反論に必要な表現を教え、言語活動を通じて交渉会話を体験させることで、英語を使つての課題解決という、英語使用の新たな可能性に気づき、学習意欲を高めることが期待できる。

英語でやり取りすることを通じて、思考・判断・表現する力を高めることが求められる。単元の目標達成のために必要な知識や技能を分析して認知負荷を調整した複数の言語活動を作成し、段階的に配列して生徒に取り組ませること。そうすることで、学ぶ意欲を維持しつつ、必要な技能や表現の習得を進めることができる。

本単元のメインタスクやパフォーマンステストで得られた発話の質の分析結果から、本論文で紹介した言語活動中心の単元展開によって、生徒の英語運用能力が効果的に高められたことが確認された。かみ合わせのポイントを、参加プログラムの決定のための優先事項としたところ、パンフレットから必要な情報を得て、論理的な発話内容とできていた。

しかし、狙ったレベルのパフォーマンスになっていなかった例がいくつか見られたことから、課題も見つかった。やり取りを反復させたり、口頭でのフィードバックを与えたりするだけでなく、書くことの活動も含めて言語材料の定着を総合的に図ることも検討すべきである。英作文であれば読み返すことで、必要な言語材料の定

着の度合いについて生徒が自分で確認しやすくなることも期待できるからである。

注

- 1) 5つの技能・領域別の得点を、対応無しの一元配置分散分析で比較したところ、 $F(4,185)=4.46$, $p<.01$ で有意差が見られた。Tukey を用いて多重比較を行ったところ、最も平均値の高かった「読むこと」の得点に対し、「聞くこと」($p=.024$)、「話すこと [発表]」($p=.010$)、「話すこと [やり取り]」($p=.004$)との間にそれぞれ有意差が見られた。このことから、対象の生徒たちの総合的な英語力は、検定試験や模擬試験などで測れる得点では、平均的な高校1年生とはかけ離れた、優れたものであるかもしれないが、運用能力の技能バランスから考えると、他の高校生と同様の悩みを抱えている生徒が多いと考えられる。
- 2) 残りの30分間は、教科書の別単元 (Lesson 6) の題材を用いた学習を、Communication in Practice の展開とは関連させない形で展開した。
- 3) NHK ラジオ基礎英語などの16万以上の英文、1万以上の会話例を含むデータベース型教材。ウェブ上でアクセスし、キーワード検索、文法用語検索などを用い、作成したい対話モデルと同じ要素を持った対話例を引き出すことができる。
- 4) 待っている生徒は聞き耳をたてれば、上手くできた生徒の次に受験する生徒は有利かもしれない。ただ実際は、選択の対象となる4つのプログラムの中の、把握しておくべき情報を一生懸命に読んでいたようであった。テストの種類ごとに得られた実発話語数の平均値は38.63語~46.63語とばらつきがあったが(全体では42.25語)、平均値の違いを、一元配置分散分析で検討したが、統計的な有意差は得られなかった($F(3,29)=1.02$, $p=.40$)。50分で実施することにしたのは、ALTの授業は2週間に1回しかないため、現実的に2時間にわたって実施するのは、不可能と判断したこともある。
- 5) 実発話語数とは、すべての発話から、時間を稼ぐために繰り返し発した語や、文法的誤りに自分で気付いて言い直した語を取り除いてカウントしたものである(Foster 他, 2000)。

参考文献

- 愛場吉子・ウィン, アーサー (2015). 『相手を必ず味方につける英会話のロジック』. アルク.
- Bygate, M. (1987). *Speaking*. Oxford University Press.
- Carroll, (2008). *Psychology of language (5th Edition)*. Belmont, CA: Thomson Higher Education.
- Council of Europe (著) 吉島茂・大橋理枝他 (訳) (2014). 『外国語学習, 教授, 評価のためのヨーロッパ共通参照枠』. 朝日出版社.
- Foster, P., Tonkyn, A., & Wigglesworth, G. (2000). Measuring spoken language: A unit for all reasons. *Applied Linguistics*, 21, 354-375
- Goh, C., & Burns, A. (2012). *Teaching speaking: A holistic approach*. Cambridge University Press.
- Hawkes, M. (2012). Using task repetition to direct learner attention and focus on form. *ELT Journal*, 66, 327-337.
- 本多敏幸 (2016). 『即興スピーキング』. アルク.
- Koester, A. (2014). “We’d prepared to do something, like if you say ...”: Hypothetical reported speech in business negotiations. *English for Specific Purposes*, 36, 35-46.
- 小泉利恵 (編) (2022). 『英語スピーキングテスト作成ガイド』. 大修館書店.
- Lafond, C., Vine, S., & Welch, B. (2010). *English for negotiating*. Oxford University Press.
- Luoma, S. (2004). *Assessing Speaking*. Cambridge University Press.
- 文部科学省 (2017). 『平成29年度英語教育改善のための英語力調査事業報告』. https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/_icsFiles/afieldfile/2018/04/06/1403470_03_1.pdf
- 文部科学省 (2019). 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編』. 開隆堂.
- Robinson, P. (Ed.). *Second language task complexity: Researching the Cognition Hypothesis of language learning and performance*. John Benjamins.
- 千菊基司 (2019). 『即興的に話す交渉力を高める! 中学校英語スピーキング活動アイデア&ワーク』. 明治図書.
- 千菊基司 (編著) (2022). 『即興的に「やり取り」する力をつける! 高校英語スピーキング活動アイデア&ワーク』. 明治図書.
- Tavacoli, (2016). Fluency in monologic and dialogic task performance: Challenges in defining and measuring L2 fluency. *International Review of Applied Linguistics*, 54, 133-150.

資料 1 単元の題材とタスク

1. International Kids Camp



Location/Country: Hokkaido/Japan
Period: August 11-18
Type: Kids
Language: English (Japanese is also welcomed.)
Fee: Free

Work	You will help interact with international children as a camp leader. You will also teach songs, arts, sports, cooking and lead other activities.
Place to stay	You will stay in an old school. Futons will be provided. Meals will be cooked by volunteers in turns.
Other activities	Cultural exchange events, trips to local sightseeing spots, etc.
Requirement	You must be motivated to work with kids.

3. School Volunteer



Location/Country: Kuala Lumpur/Malaysia
Period: August 4-14
Type: Kids
Language: English (Malay is also welcomed.)
Fee: \$300 & airfare

Work	You will mainly help with fun activities such as traditional games, dances, and songs with children.
Place to stay	You will stay at the volunteer center. Meals will be provided by local people.
Other activities	Sightseeing around Kuala Lumpur city and cultural exchange events.
Requirement	You must be motivated to work with kids. Experience of a similar volunteer work is welcomed!

2. Japanese Language Volunteer



Location/Country: Brisbane/Australia
Period: March 21-28
Type: Kids
Language: Japanese & English (Intermediate level)
Fee: \$300 & airfare

Work	You will help students learn Japanese language in a junior high school. You will also introduce some local Japanese culture.
Place to stay	You will stay with local host families.
Other activities	There are some beaches for swimming. You can also enjoy local festivals.
Requirement	You must be interested in teaching Japanese.

4. Beach Clean Up



Location/Country: Guam/USA
Period: March 31-April 2
Type: Environment
Language: English (Beginner level)
Fee: \$100 & airfare

Work	You will clean up the beaches with local people to keep a beautiful ocean. You will also see sea creatures and help local researchers.
Place to stay	You will stay in a local volunteer center. Lunches will be provided.
Other activities	You can enjoy local festivals, cultural exchange, and swimming.
Requirement	You must be interested in nature and have good health.

Act 1

You and your friend are looking at an internet website for international volunteering. This is the first time for you and your friend to join an international volunteer program. When you think of volunteer work to join, what is important to you?



- Think about your priorities for volunteer work to join. According to your priorities, write 1 (less important), 2 (important), and 3 (very important) in the table below.
- Share and compare your priorities. 🗣️
- Discuss and decide the priorities that both you and your friend agree to. 🗣️

	Your priorities	Your friend's priorities	Agreed priorities
Location			
Period			
Type/Work			
Language			
Fee			
Place to stay			
Other activities			

Act 2

Look at the website again. According to the agreed priorities, discuss and decide the volunteer work you will join.

Important Priorities

-
-

Chosen volunteer work with your friend: ()

資料 2 実際に授業で使用したタスク

Scenario 3

Student A

- You and your friend are interested in taking part in an international volunteer program. You are going to talk about a program you're interested in, and your partner is going to tell you a different idea.
- You CANNOT choose "FEE" / "Cool summer" as an advantage of the program.

A: If we take part in Program , (Advantage / Your interest などに言及)

B: (反応があります)

A: Yes. How about you?

B: (相手が意見を述べます)

A: That's true. I understand that in Program

I can also ~ (← Priority を文でまとめる)

賛成: Thank you for the suggestion. Program is also beneficial in terms of (Priority に言及). (関連する Web 情報について述べましょう。)
We both will learn a lot in [Location]

反対: Thank you for the suggestion. (反論の前の前置き), but the website says (どうしても嫌な情報を). So, I'd like to take part in Program .

Scenario 3

Student B

- You and your friend are interested in taking part in international volunteer program. In this pair work, you are going to suggest a different program that your partner may be interested in.
- ただあなたは、相手と一緒にプログラムなら満足なので、相手をよく知るために質問している、くらいの姿勢で反論しましょう。

A: ☆相手が理由を述べます。(Advantage / Your interest などに言及)

B: (発言を——音の繰り返ししたり、Web 情報について言及しましょう)

A: ☆あなたの意見を求めてきます。

B: I understand that [相手の Priority について述べましょう] is important to you. But look at Program . In terms of (相手と同じ Priority), I think Program is also good.

A: ☆あなたの提案への意見を述べます。

B: (相手が賛成してくれたら) Thank you for understanding. + コメント。

(相手が反対だったら)

相手が反対した理由を反復し, I didn't know that. + 相手の提案に前向きにコメントして終わり。

The scenario of the interview :

The examiner initiates the conversation by mentioning his favorite program. The examinee asks questions to draw reason for his opinion, repeats keywords of the examiner's speech, and confirms the examiner's intention by summarizing the speech in terms of priority. The examinee is supposed to suggest another choice of the same priority as the examiner.

Questions and expected answers: Set A E=Examiner, S=Student

(E) I think Program 3 is challenging.

(S) --- the 1st Reaction from the examinee

☆Expected answers:

2 points - What do you mean by challenging?
or Program 3. Why do you think so?

1 point - Why do you think so?

(E) We would have to use English while we would enjoy fun activities with kids.

(S) --- the 2nd Reaction from the examinee

☆Examinees are expected to repeat part of speech and mention priority:

4 points - Oh, you want to use English in the program.
So, you think language training is important.

2 point - (Use either of the above two.)

(E) Yes. I really want to improve my English. How about you?

(S) --- the suggestion from the examinee

☆Examinees are expected to answer by one of the followings: 2 points

(In terms of language training), I think Program 1 is good, too.

We will use English to communicate with foreign kids.

(In terms of language training), I think Program 2 is good, too.

We will use English to teach Japanese culture.

(In terms of language training), I think Program 3 is good, too.

We will use English while we stay in the local volunteer center.

※ If the examinees reaction stops at the underlined part, ask "Why?"

(E) (Please agree with the suggestion if it is based on correct information and you can share the same priority, and end the test.)

☆Sample answer:

Oh, I see. In terms of language training, Program ___ is also good.

☆Bonus Question (← Ask this if you have at least 10 more seconds) :

But if we choose Program 3, we can stay there for 10 days and that will be beneficial. What do you think?